

## 巻頭言

2013年10月長崎大学国際教育リエゾン機構が新たに発足し、これまでの留学生センターの紀要を引き継いでから1回目の発刊となります。前回は丁度過渡期にあたり、第21号・22号の合併号でしたが、正確には今回は創刊号となり第1号・2号となります。現代競争社会では、「創造的破壊」や「選択と集中」という言葉をよく耳にしますが、組織にあっても限られた陣容と予算、そして時間の中で、まず創造（目的やアイデア）が先にあり、その結果旧態依然としたものが破壊されて行くと言う意味では、真理の一面を表しているのかもしれませんが。その意味では、組織再編が先に進んだ国際教育リエゾン機構は、教員と職員が一丸となり留学生への対応を強化推進するという目的に沿うべく、個人の意識レベルにおいても変革が求められることとなります。すなわちグローバル化への柔軟な対応は、留学生の日本語教育や生活支援に留まらず、英語教育を中心とする日本の文化や教養、そして専門領域での知識や技術のグローバルな伝播を、長崎ならではの多様な英語科目の創生を通じて、学生教育の場の提供と支援が求められることとなります。

国際教育リエゾン機構では、すでに留学生日本語教育事業を中心として推進していますが、本年度の最大の変革は、全学教養モジュールの英語教育科目の導入と充実という大学方針に沿った取組みを開始したことです。冨田彰秀国際交流担当副学長を中心に、言語教育研究センターや教学関係事務組織との連携の中で、まずは「Special Course for Academic Skills (SCAS)」という英語特別コースを全学の1年生後期から選抜された学生に対して開始しています。同時に2016年度からは、「長崎グローバル+コース」という全学教養モジュールの一部としての英語科目提供にも責任を持ち、長崎大学スーパーグローバル認定学士修得に意欲ある学生の一連のプログラムを策定予定です。その為に国際性豊かな教員団を組織しつつ、留学生との共修プログラムの拡充や、本学学生の英語力アップにも貢献しなければなりません。

今回の紀要では、留学生に対する上級日本語学習の検証方法、日本語学習者の誤用から考える揭示法の分析、本学学生の中国語短期語学留学の10年の取り纏め、本学学生のアンジェ大学春期フランス語語学留学報告の4つの報告書に加えて、平成27年度留学フェア・進学説明会等参加報告が、他の

資料とともに掲載されています。本学から海外への留学は当然英語圏のみならず、中国や韓国への近隣アジア諸国もありますし、欧米英語圏以外の種々言語が異なる諸国も対象となり、多種多様なニーズへの対応の難しさもあります。学生の安全確保や経済的な支援も欠かせません。特に、「トビタテ!留学 JAPAN 日本代表プログラム」の留学制度へのチャレンジと成功が今後の鍵でもあります。いずれの事業参画においても、単に語学能力の向上以外に、課題解決能力をはじめ人間としての成長を促す為の側面支援も求められています。これは国際教育リエゾン機構だけでは出来ず、全学各学部・研究科との連携が不可欠です。留学生への学習環境ならびに生活支援を充実させる為の取組みも種々行なわれていますので本紀要の更なる充実と活用を目指したいと思います。

最後に、教職員一人一人が本学の第3期中期目標・中期計画に沿った留学関連、そしてグローバル化事業に、誇りと自信、そして責任感と喜びをもって活動ができるような体制づくりにも努力する所存です。全学支援組織としての国際教育リエゾン機構が、その歩みを確固たるものにすべく関係各位のご理解とご支援を切望してご挨拶とします。

長崎大学理事・副学長  
国際教育リエゾン機構長

山下俊一